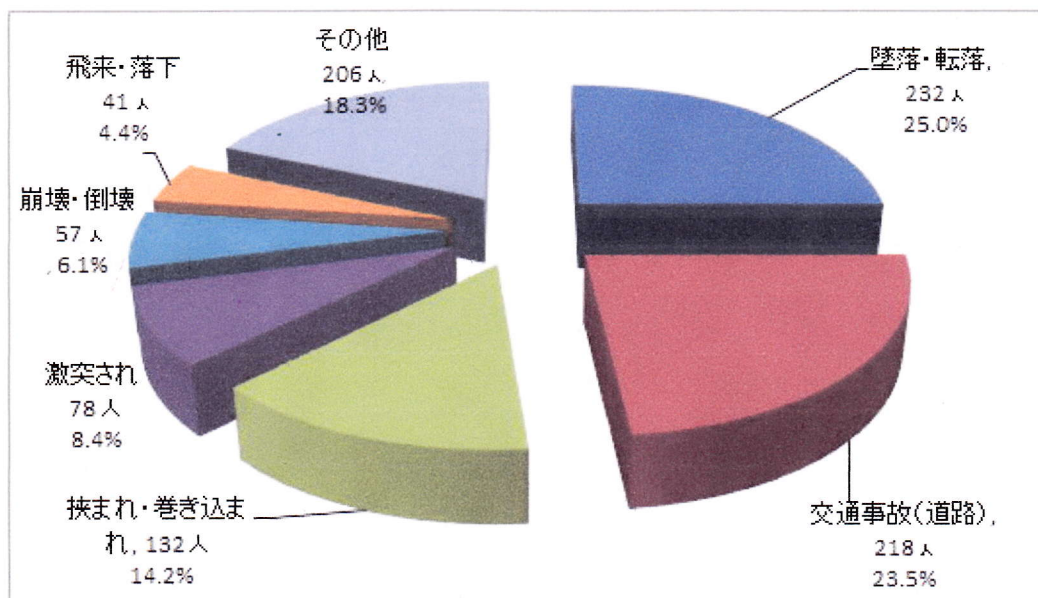


高いところは怖い！

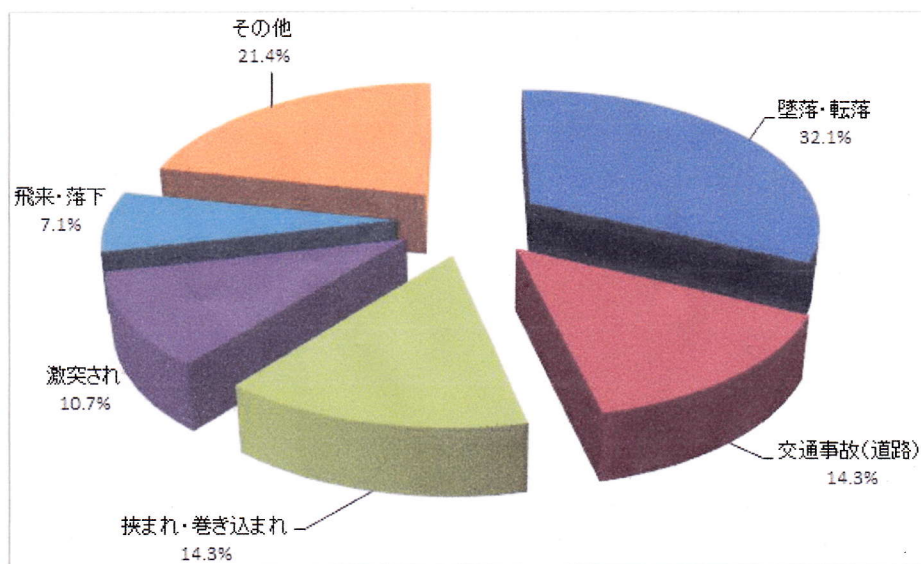
高いところは危険です。もし、高所から間違えて落ちてしまったら多くは「重大災害」に繋がりますし、怪我をしなくてもかなり「痛い」思いをします。ですから、「高いところは怖い」というのはごく常識なのです。

全国の「事故の型別死亡災害発生状況」(全産業・平成28年)は、下記のようになっています。



労働災害による死亡者数928名の方のうち、実に約25%、232名の方が「墜落・転落」が理由で亡くなっています。日常生活でも一般的に起こりうる交通事故を別とすれば、死亡災害の最大の原因です。

また、平成28年の神奈川県での死亡者数28名の「事故の型別災害発生状況」は次のようになっています。



神奈川県の場合は、死亡災害のうち約32%の方が「墜落・転落」が理由で亡くなっています。

「高いところは怖い」はずなのに、なぜ死亡災害原因の上位となっているのでしょうか？

平成11年度に東京労働局 中央基準監督所管内で発生した休業4日以上「墜落・転落」災害99件の事例を分析した結果です。

1. 新規入場の初日の被災は22%、1週間以内で41%！

4割の方が1週間以内ということは、新規入場者教育が大切であることがわかる。

2. 経験10年以上のベテランが約6割も占める！

新人だけではなく経験者への注意も重要。なお、このうち過半数が50歳以上である。

3. 墜落・転落した場所は、やはり注意すべきところでした！

足場関係は約30%、脚立・ウマが20%、開口部からが13%・・・安全対策の強化が必要である。

4. 2m未満の高さでも、重大災害につながる！

高さ3m未満と3m以上が、ほぼ同じ割合となっている。2m未満も目立つ。

5. 危険な高さにいる、と思った人はわずか15%！

逆に、思わなかったが6割。危険予知活動で危険を意識させ感受性を高める必要がある。

6. 墜落防止の設備がなかった・・・より適切な設備の計画や使用の徹底が必要！

あっても正しく作っていなかった・・・2割。設備があるのに被災した・・・35%（移動中が多い）。

7. 安全帯は付けていたが、使用していなかった方が大半！（やはり、監視が必要なのか・・・）

3分の2が付けていたが、その8割が使用していない時に被災している。なお、着帯もせず3分の1も！

みんなで注意して高所からの墜落災害を防ぎましょう！